
GUNHUNTERGIRL

sola

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

GUNHUNTERGIRL

【Nコード】

N3141Z

【作者名】

Sola

【あらすじ】

HUNTER×HUNTERの世界に転生トリップした少女チエリッシュがハンターになって原作イベントを極力回避しながら必死に生きる物語です。

主人公は少しトラブルメーカーですのでたまにいろんな騒動に巻き込まれます。

プロローグ

私は死んだ・・・

私は前世では何の特徴もない普通の女子高生だった。

ちなみに死因は車にはねられそうになった子供をかばっての事故死です。

確かにバトルマンガのようなファンタジーな冒険をしてみたいな！
とは思ったことはあるけど。

なんで

なんで

危険度満載なHUNTER×HUNTERの世界に転生トリップしてんだろ・・・

まあとりあえず死ぬ気で修行して念を身につけますか。

あ、言い忘れましたけどこの世界での私の名前はチェリッシュ・バートンです。

若輩者ですがよろしくお願いします。

1話 水見式（前書き）

チエリッシュは原作のゴンやキルア並の天賦の才を持っています。

1話 水見式

ここはパドキアのはずれのとある田舎の港町

その街のはずれの森に4歳くらいの一人の少女がいた。

彼女の名はチェリツシュ＝バートン

4年前に神のいたずらかこのHUNTER×HUNTERの世界に転生トリップした者である。

「ふー、ようやく纏・練・絶と四五行がまともにできるようになったわ。

ここまでできるのに4年と長かったよ」

少女はここまでの苦勞をしみじみと独り言で語っていた。

まあ、赤ん坊の頃から両親に気づかれないうにしながら瞑想をして精孔を開き、纏・練・絶・疑等と念の修行をしたのだから当然なのだが。(しかも、まだ体が幼いので念の上達に体がついていないためもある)

「さーて、水見式をやってみますかー。」

チェリツシュが両手を向け水と一枚の葉があるガラスのコップに向

かって発をすると

「どういうこと・・・？」

水の中に不純物ができて水の色が変化してる・・・」

コップの水の水中には粒のようなものができて、水の色が赤くなっ
ていった。

「これって、私は得意系統は具現化系と放出系と2つもあるってこ
とかなー。」

ま、転生者補正ってところかしら

悪いことじゃないしそういうことにしておくと

というほつに1人納得した。

「あ、もうこんな時間だ。早く帰らないと父さんに怒られるわ。」

そして、彼女は目にもとまらないスピードで港街へと向かった。

2話 ガン・シヨ―（前書き）

たぐさんの感想待っています。

2話 ガン・シヨール

私の両親は芸人である。

なんでも昔、父ゲイル＝バートンと母ニナ＝バートンは警察だったらしく銃の腕はかなりのもので優秀だったらしい。

らしいというのは、なんでも警察がマフィアと手を組んだりして、詳しいことは知らないが、二人共世界の黒い部分を知って上司や上層部のやり方に付き合い切れなかったので辞めたそうだ。

今は射撃の特技を生かして凄いい早撃ちの曲芸撃ちを駆使したガン・シヨールをして生活している。

そして、今私は父から玩具の銃ではあるが、銃の扱い方を学んでいる。

「うーむ、チェリツシュは上達が早いなー。

さすが俺の娘だ。」

「父さんがやったことを真似ただけよ。」

(おいおい一朝一夕でここまでできるものじゃないだろ……)

父は百発百中での的に当てまくっている私を見て呆れていた。

そんな父が呆れていることを知らないチェリツシュは今後のことを

考えていた。

（ふう、今は原作が始まる10年前で私がハンター試験を受けられる年齢まであと6年

原作メンバー特にヒソカに遭遇したくないから早くとも原作の4年前の283期遅くとも2年前の285期にするべきだわ。この世界は死亡フラグ満載だから慎重に行動してある程度危険をなんとか自衛できるよう強くなるために頑張って修行しないと）

と必死にまじめに銃の特訓をしていた。

そして、夜

「ふー、ようやく練の持続時間は30分かー、
疲れた・・・

ゴン達はこんなきつついことしてたんだなー、凄いよ」

というふう遊び時間とかの暇さえあれば念の修行をして

それ以外は家の手伝いや銃の修行をする修行一色ハードな生活を送っていた。

そして、彼女は気づいていなかった。自分は1000万人に一人の才・素質を持っていて

凄いスピードでどんどん強くなっていることに

3話 念銃 前編

銃の訓練を初めて1年たち、チエリツシユは5歳になっていた。

「ふー、当然といえば当然だけど、実弾が入った銃はまだ持たせてくれない。」

実はさつき父に実弾が入った銃を扱わせてほしいと頼んだのだが、父が

「少なくともまだお前には10年早い」と笑いながら言われた。

それで今、ゴム弾やBB弾の銃を使って訓練している。

(それでも子供には危険で持たせるのは早いと思うけど・・・)と考えながら、銃の訓練を始めようとしたら、黒色と銀色が混ざった色のものすごく気になる銃が目に入った。

「ねえ、父さん・・・この銃は？」

「ああ、それはずいぶん古い銃のプラモデルさ。気に入ったのなら自由に持って行っていいぞ。」

その銃を疑で見てみると

(いや、その銃はプラモデルなんかじゃないすごい銃だと思っけど、だって神字らしきものが刻んであるし、オーラがバンバン出てるから・・・)

訓練が終わり彼女はいつもの街のはずれの森に来ていた。当然、例の銃は持って来ている。

「さーで、早速試してみますか。」

と言って両手で銃を持ってみると

「すごい、自動的に周が発動してる。

しかも、自分の手足のような感じがする。

とりあえず、一発撃ってみよ。」

そう言いつつ、念の応用技の硬を込めながら銃を目の前の2m位の岩に向けて

ドンッ

と念弾を撃つと

バゴーン

岩が粉々になりました・・・

「・・・あまりこの銃は使わない方がいいかも
強力すぎるし・・・」

と彼女は半分呆然としていると

ガサガサ ガサガサ

「ん、なんだろ・・・」

そして、出てきたのは

「う、嘘、なんでキツネグマが・・・」

よだれを垂らした危険な肉食動物だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3141z/>

GUNHUNTERGIRL

2011年12月11日13時52分発行